

私たちの町の文化財

■第9話 独鈷山の竹崎家墓地

「夕鶴」などで知られる、戦後を代表する劇作家、木下順二を皆さん御存知でしょうか。彼の最初の戯曲「風浪」には山田蚕軒という大変魅力的な人物が登場します。このモデルとなったのが、彼の曾祖父の弟である竹崎（木下）律次郎（茶堂）です。

木下律次郎は激動の幕末に生まれ、竹崎家の養子となり、酒造業を営みますが、米相場で失敗し破産します。その後横井小楠の弟子となり、実学党の中心人物として明治3年の先進的な藩政改革を行なうなど活躍します。役人を辞めた後は本山町に私塾「日新堂」（現在の向山小学校の前身）を開き、最盛期には普通科300名、小学科70名を超える塾生を抱えていました。甥っ子でもある徳富蘇峰・蘆花なども一時在籍しています。

夫人は「肥後の猛婦」「四賢婦人」として名高い竹崎（旧姓矢島）順子。明治初期に女性の地位向上を目指し活動するとともに、教育にも力を入れ、熊本女学校（後のフェイス女学院）の校長として活躍し、現在も校母として慕われています。

晩年は、市南西部を見渡せる独鈷山の南側中腹、高野辺田に居を構え、明治10年になくなりました。旧居跡は現在竹崎公園となり、公園の上の段にある墓所で、茶堂と順子夫妻は静かに眠っています。

熊本市文化振興課 師富国博氏

肥後の猛婦は、
熱く、頑固で、パワフルな
今にうながる、時代の最先
端を切り開いてきた「熊本
のモダンな女性たち」……

